

Desert Wind (No. 12)

Las Vegas Japanese Community Church

NOVEMBER 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山末樹

『ライフワークを持つ幸い』

LJVCC 牧師 鶴田健次

人生はよく旅にたとえられますが、その目的地は一体どこなのでしょう。人間は何のために生きて、どこへ向かっているのでしょうか。この世に生を受けた者は必ずこの世を去る時が来ることは誰もが知っています。しかし、死んだ後の世界については、人間が考えて分かることではありません。「人は、死んだらどこに行くのか?」という疑問に対する答えは、死後の世界を支配される神のみぞ知ることです。そして、私たちはそれを聖書の中に見出すのです。

聖書によれば、キリストにある者の靈魂は、地上の生涯を終えると同時にその体から離れ、しばらくの間、そのままの状態でもパラダイスに留まりますが、キリストの再臨の時、永遠に朽ちない栄光の体が与えられ、その体の中に宿り、やがて永遠の天国で生きることになるのです。ですから、この永遠の命を自分のものにできさえすれば、地上の生涯が100年であろうが、60年、30年、10年であろうが、その違いが違いでなくなる死生観が与えられるのです。

現代は、生きる目的がもういちど問われている時代です。人は見えるものにばかりに目を向けますが、見えるものは常に変わりゆくもので、そういうものばかり見ていると、自分を

見失ってしまいます。日本を代表する評論家が手首を切って自殺をしました。校長先生が首吊り自殺、警察官がピストル自殺、エリート官僚が飛び降り自殺をしました。世の中の指導的な立場にある人も、分かっているつもりで分かっていないのが人生の目的です。生きる目的が分からなければ、人は本来の人生を生きることなどできません。個人的にも、社会的にも、国家的にも、生きる目的が問われているのが今の時代です。そういう中で、聖書はすべての人に、普遍的な人生の目的があることを教えています。

聖書が教える普遍的な人生の目的は、神を礼拝することです。天地万物の創造者であり、滅び行くすべての人に永遠の命の道を備えられた神様は、すべての人が救われ、神様の素晴らしい御名を賛美しながら、神様を礼拝することを求めておられます。これが、創造者と被造物、つまり神と人との正しい関係であり、この正しい関係の中でしか、人は永遠に関わる本当の意味での人生の意味を見出すことも、味わうこともできません。ですから、神様を礼拝することは、人間存在の基礎として何よりも大切なことであり、何か用があるからといって簡単に休むべきものではありません。万難を配し、全身全霊をもって、守るべきものが礼拝なのです。それが真の礼拝者の態度であり、そこにこそ至福の喜びに至る道があるのです。

私は、年を重ねるごとに、ライフワークを持つ

ことの大切さを感じないではいられません。神様の永遠の計画に目を向け、その中で自分に与えられている役割を見出し、自分が最も自分らしく活かされる働きをして生きる。それがクリスチャンとしてのライフワークを持つことです。生涯をかけて、永遠に残ることのために生きることほど価値のある、また喜びと満足と平安に満たされるものは、この世には存在しません。ですから、そんな生き方ができるということは、本当に光栄なことです。永遠のために生きるということは、必ずしも牧師や伝道者になることではありません。老若男女、社会人、学生、子供、どんな立場にいる人でも、自分の置かれたところで、天に宝を積む生活をする、それが永遠のために生きることであり、その人が最もその人らしく活かされる道です。

神さまの大きな御手の中で
かたつむりはかたつむりらしく歩み
蛍草は蛍草らしく咲き
雨蛙は雨蛙らしく鳴き
神さまの大きな御手の中で
私は私らしく生きる
『生きる』(水野源三作)

どうぞ皆さんが、神様の創造の目的に従って、ご自分のライフワークを見出していかれますように。

証し 「集会に参加して」 後半

末廣和美

去年のクリスマス、私は日本にいた母が肺炎を患ったという連絡を受けました。様々な事情の中、日本への帰国が出来ず不安と親の看病も出来ない苦しみと悲しみの中で主は私を早天祈禱会で主に祈る事へと導かれました。主は日々、祈りの中で私の祈りを強められ、また祈りの導き手となり終には信仰をも祈りを通して引き上げて下さいました。集会で祈り始めた頃はただ「癒して下さい」という祈りでしかなかったものが「全てをお任せ致します」に変わり、「御旨がなされますように」となり、とうとう「私の全てを主に捧げ致します」という祈りになりました。この集会についても私は主との間に「コミットする」という約束を交わしました。土、日、2日間がお休みのうち休日初日、土曜日の朝6:30という私の1週間の時間の中でも間違いなく朝寝が出来る最も良い時間を主にお捧げするというのは本当にチャレンジでした。しかし、先にも述べました苦しみと悲しみという気持ち、また母への愛が私を支え続け、それ故、聖霊様も私を支えて下さり全能なる主をもっともっと慕い求める思いへと導いて下さいました。この集会に関しては、去年の12月から一度のお休みを除いてすべての土曜日、主に守られながら集うという恵みに今も与っています。

今年4月、母の葬儀のため帰国した際、札幌羊ヶ丘教会の兄弟、姉妹の皆様方が献身的に母のもとへ通い、共に賛美をし、祈り、聖書を読み・・・とご奉仕して下さいました。「私も行きましたよ」、「私も」、「私も」とそれは多くの方々を通して下さったのです。何も出来なかった自分の不甲斐なさにしよげ返っていた時、「ならばあなたには何が出来る?」という主の問いかけが聞こえました。「主よ、私も神の家族のために働くことが出来ます。それによってあなたに栄光をお返しすることが出来ます。」そう心で叫んだ後、主がにっこりと微笑まれている様な温かい感じがして心が喜びと平和に包まれました。帰米後、「全てをお任せ致します」と祈った事をすっかり忘れていた私に主は様々な事を通して献身的道へと進む決心を促されました。その一つが先頃始めたシニアミニストリーでした。病身でご高齢のクリスチャン達が病の為に礼拝を守ることが出来ないとい

う事は決して神の御心ではありません。私もあの羊ヶ丘教会の兄弟姉妹達が母の為に下さった様にこのラスベガスの地において何らかの働きをしなければと、何かに突き動かされる様にこのミニストリーを始めました。しかし、この働きには様々な理由から牧会の働きが非常に重要になってくる事が分かるにつれ、献身への想いが深まりました。私は主に祈った「私の全てをお捧げ致します」という約束を主にあって思い出し、終に「決意する」ということになるわけです。たった一つの5、6人小さな「集会」から「献身」の道へ。一年前、勉強会へ参加しようと思った時の本来の目的はただ「交わりのため」だったものがそこに主が働かれる事によって信じられない事が起きたのでした。聖書勉強会に母の病、早天祈禱会や他教会との交わりそして主にある奉仕と一見、何の結びつきも無い一つ一つの出来事の上に主は御自身の御計画に従ってそこに統一性を生み出し、更に一貫して導きの為にそれぞれを用いられたのです。何と素晴らしい神の御業かとただ御前に畏れ入るばかりです。

今、「献身」の決心をした後、この一年を振り返る時、一つの御言葉を思い出します。『主の山に備えあり』、創世記の中の余りにも有名な御言葉です。主の山にはいつも私達に必要な備えがなされているのですが、まずは主に信頼し私達自身がその信頼ゆえに主の御前に従順になり、自ら山に足を踏み入れなければ何も手にする事は出来ないのです。山に登るには一合目から始めてその高みを目指して一歩ずつ上っていかなくてはなりません。私にとっての一合目はたった一つの集会に決意して参加した事でした。もし、いつもの様に弱い自分に言い訳をしながら、また慈愛に満ちた主の寛容の上にあぐらをかいて行ったり行かなかったりを繰り返していたのなら、私は今でも山に足を踏み入れることすらせず遥か彼方からその山の頂を「きれいだなあ」などと思いつつ眺めているだけだったかもしれません。そこに本当に備えがあることなど知らず。

余談ですが、私は8月から松岡兄弟のスモールグループに参加しています。3つ目の集会です。今度は何合目まで登ることが出来るのかとも楽しみです。全てにおいて愛する主に心からの賛美と感謝をお捧げ致します。アーメン

案内・ニュース

- ・新しい教会の場所を探しています。少なくとも3000SQFTのスペースが必要です。どうぞこの事のために皆さんが祈り、情報を集めて下さい。主の御用が制限をされることのないよう、信仰をもって進みましょう。
- ・11月7日(水)5:00PMよりお好み焼きの集いを持ちます。場所は教会です。どうぞ皆さんがお友達を誘ってお出でください。
- ・11月25日(日)の礼拝は、サンディエゴのポニータ日系聖書教会の中村敬宇牧師をお迎えします。
- ・牧会者養成クラスが始まりました。学びを始めた末廣和美姉、細田則子姉、鶴田潤子姉のためにお祈り下さい。

DREAMS COME TRUE

- ⇨教会堂の建設
- ⇨敬老ホームの設立
- ⇨幼稚園の設立

